

1 研究概要

(1) ねらい

本校では、令和2年度に生徒一人に一台のタブレット端末が整備され、活用が開始された。令和3年度から、グーグルクラスルームを活用して全校生徒と教職員がタブレット端末で様々な教育活動ができるように進めてきた。

そこで、さらなる教育活動の充実に向け、教職員の ICT 活用スキルを向上させたグーグルクラスルームの活用について、外部講師によるオンライン講習会を行い、授業等での活用を図っていきたいと考えた。

また、本校の3年生は、カナダのRCA（リージェント・クリスチャン・アカデミー）校とのオンライン交流を行っている。今年で3年目である。交流する相手校の生徒数を増やしたり、交流内容を充実させたりすることで、英語で会話する機会を増やし、交流をさらに充実させていきたい。

(2) 内容

- ①グーグルクラスルームの活用法について、講師によるオンライン講習会を行う。
- ②カナダのRCA校とオンラインでつなぎ、英語で交流する場を3日間設定する。

(3) 計画

①グーグルクラスルームの講習会

- 【4月28日】講習会を行う事業所を決定する。
- 【5月18日】講習会の日程と研修内容の打合せを行う。
- 【7月25日】オンラインでの事前動作確認を行う。
- 【8月26日】町内の小学校と合同でオンライン講習会を行う。
 - ・グーグルクラスルームの活用法について講師から学ぶ。
- 【9月～】グーグルクラスルームを活用した授業を積極的に行っていく。

②カナダのRCA校とのオンライン交流

- 【9月30日】旅行会社を通して、カナダのRCA校との交流スケジュールを決める。
- 【10月～】RCA校との交流に向けて、英会話の練習を行う。
- 【11月】11月15日 機器等の準備、RCA校と接続テストを行う。
 - 11月16日 交流1日目（8：30～10：00）
 - 11月17日 交流2日目（8：30～10：00）
 - 11月18日 交流3日目（8：30～10：00）
- 【12月】総合的な学習の時間の中で交流のまとめや振り返りを行い、次年度の交流につなげる。

(4) 研究の実際

①小中合同でのオンライン講習会

講習会では、次のようなことを学んだ。

- ・ドライブについて
- ・Jambordを使ったワーク①～④思考を整理する例など
- ・Google フォームを使ったクイズや小テストの作成など
- ・新しいアプリの紹介

講師の説明を聞き、実際に Jambord や Google フォームを使うことで、プレゼンシートやクイズ形式での小テストを作成することができた。このようなアプリを使えば、生徒が同時に作業を進められたり、お互いのシートを見合って参考にしたりすることができる。

また、シンプルな入力画面で低学年の子でも簡単に入力できたり、自動採点や集計作業の効率化で教員側の負担も軽減されたりすることが分かった。研修を終えた教員の感想は下記のようなものである。

- ・ Jambord は見やすく視覚支援になるし、子どもの感想などをまとめやすいので、小学校の授業でもすぐに使えると思った。2学期の授業からぜひ活用してみたい。
- ・ Google フォームを使えば、アンケートや小テストが簡単に作れて集計までしてくれるので、仕事の効率化が図れると感じた。
- ・ プレゼンシートでは、他のシートを参考にしながら作成できるので、困っている生徒への支援になると思った。実際に作成してみて、写真などを取り込む方法が分かったので、大変勉強になった。

研修後、小学校では、社会科の授業で実際に Jambord を使って、児童のアイデアをまとめて視覚化することで、分かりやすい授業を展開することができた。中学校では、総合的な学習の時間で、Google シートを使って体験したことをまとめたり、発表に生かしたりすることができた。また、生徒会のアンケートや生徒総会の場でも、グーグルクラスルームを使って資料を共有して進めるなど、様々な場面でタブレット端末の活用を進めることができた。

②カナダの RCA 校とのオンライン交流

11月16日から18日まで次のような交流を行った。

	交 流 内 容
1 日 目	・ RCA 校の生徒、先生による生キャンパスツアー ・ グループに分かれて交流（自己紹介、質問やフリートーク）
2 日 目	・ アイスブレイキング（ゲーム） ・ プレゼンテーション（東栄町、中学校、日本文化の紹介など）
3 日 目	・ 全体でのレクリエーションゲーム ・ 東栄中学校の生徒によるバーチャルゲーム ・ 合唱のプレゼント、お礼のあいさつなど

今回は交流する RCA 校の生徒が10人ほどであったため、4つのグループに分かれて、交流を行うこととした。1日目は、初対面でオンラインということもあり、お互いに緊張している様子が見られた。しかし、自己紹介や質問をしていく中でしだいに打ち解け、共通の好きなアニメやキャラクターの話では、笑顔で盛り上がっている様子が見られた。2日目は、生徒がタブレット端末の Google シートで作成した東栄町と東栄中学校の紹介を行った。Zoom の機能にある画面の共有機能を使って、写真のスライドを見せることで、RCA 校の生徒も興味深く聞いていた。3日目は、生徒から積極的に話しかけている様子が見られた。ここでも Google シートで作成した日本についてのクイズをプレゼン形式で行うことができた。生徒は、日頃からタブレット端末を使用していることで、RCA 校とのオンライン交流でも、ICT を活用して楽しく交流することができた。3日間の交流の振り返りは以下のようなものである。

生徒の振り返り	
1日目	<ul style="list-style-type: none"> ・もっと自分から積極的に話しかけていきたい。 ・オンラインで声だけだと聞き取りにくい部分もあるので、ジェスチャーを交えて分かりやすく伝えられるようにしたい。
2日目	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンで感想を言ってくれたり拍手してくれたりしてうれしかった。 ・明日は最後なので、恥ずかしがらずにゲームなどを思い切り楽しみたい。
3日目	<ul style="list-style-type: none"> ・最初は緊張してうまく話せなかったけど、交流をしていくうちに積極的に話せるようになった。オンラインでも会話を楽しむことができた。 ・伝えようという気持ちがあれば、多少英語が間違っても伝わることが分かった。 ・カナダにはたくさんの人種がいて、互いに尊重し合うことが大切だということが分かった。また海外の人と交流がしてみたい。

「3日間の交流を通して楽しかったですか」という質問に対して、全員が「とても楽しかった」と回答した。また「機会があればまた交流したいですか」の質問にも、全員が「Yes」と答えた。RCA校とのオンライン交流は今年で3年目になるが、参加する生徒が増え、グループに分かれて行ったことで、生徒一人一人の英語の発話量がこれまでよりも増え、充実した交流をすることができた。

2 研究の成果

(1) 成果

① グーグルクラスルームのオンライン講習会

これまでタブレット端末の活用に悩んでいた教員も、8月の講習会を通して、グーグルクラスルームの活用の仕方を学ぶことができた。研修で実際のアプリを使ってワークを行ったことで、授業の中でどのように使えばよいのか、具体的にイメージすることができた。1学期はあまり活用できなかった教員も、2学期以降、Jambord や Google フォームを授業

内で使ってみたり、さらに有効な使い方はないか他の職員に聞いたりするなど、ICT 機器を活用していこうとする意識が高まった。また、生徒自身も授業や委員会などでタブレット端末を使用する機会が増え、活用能力を高めていると感じる。



小中合同での講習会の様子

②カナダの RCA 校とのオンライン交流

3日間の RCA 校とのオンライン交流を通して、生徒の様子や振り返りなどからも、楽しく充実した交流ができたことがうかがえる。初めは、英語での交流に自信がなかった生徒も、完璧な英語が話せなくても、簡単な単語やジェスチャーで十分伝わるといことを実感することができた。一生懸命に話を聞いて理解しようとする RCA 校の生徒に対して、しだいに心を開き、積極的に話そうとする姿が見られた。3日目の交流の最後に、本校の生徒から感謝の気持ちを込めて、合唱「ふるさと」をプレゼントした。生徒たちの合唱を聞いて、涙ぐむ RCA



オンライン交流の様子



RCA 校の生徒とお別れするとき

校の生徒もいるなど、オンラインでも心は通じ合っていると感じた。今回の交流では、タブレット端末を活用して、町や学校紹介のプレゼンやクイズを行うなど、ICT 機器を有効に活用することができた。RCA 校の生徒たちも、本校の生徒以上に ICT 機器を個々に使いこなしていた。次年度に向けても、よりよい交流ができるようにしていきたい。

(2) 課題

ICT 活用の研修やオンライン交流を通して、少しずつ ICT 機器を使うことに慣れてきたが、生徒も教員も活用能力には個人差がある。情報教育に長けた先生ばかりに負担がかからないように、今後も研修を深めて、全体の活用能力を高めていきたい。

研究発表や研究授業を観た際、協議会の中で、ICT 活用のことが話題となった。「ICT を使って授業を行うことはよいが、ICT を使うことが目的となつてはならない。」という話だった。ICT はあくまでもよりよい学びをするための手段であつて、目的ではないということに改めて実感した。本校も、ICT 機器を使うことはひとつの手立てであるにとらえ、目の前の「この子」をよく見て、その子が成長するために必要な支援を、日々の実践の中で行っていきたい。

